

Steve Jobs と寺田寅彦の foolish

神田英一郎*

私は以前から数理データサイエンスの研究を行ってきたが、AIを含めたデータサイエンスの急速な発展に伴って、昨年から学生に授業を担当するようになった。データサイエンスが身近になった背景にはスマートフォンが大きく関与している。Apple社のiPhoneは多くの方がお持ちだろう。

2007年、Apple社の創業者Steve JobsはiPhoneのリリースで人々の心を掴み、生活を一変させた。iPhoneの勝利の要因はいくつもある。まず、電話やインターネットと組み合わせた発想自体が革新的な発明であった。さらに、「小型のパソコン」ではなく身近な「電話」と位置づけたことで、パソコンに疎いユーザが抵抗感なく使うようになった。どんな技術者にもまねできなかった発想はどこからきたのだろうか？

Jobsが2005年にスタンフォード大学の卒業式で行ったスピーチでは、人生観が余すところなく語られ、聴衆の感動を呼んだ。この講演の最後で、“Stay hungry, stay foolish”という言葉が引用されている。この言葉に秘密があるように思う。

寺田寅彦は物理学者であるだけでなく、夏目漱石を師と仰ぐ随筆家でもあった。彼の研究対象は独特で、「X線の結晶透過」のような最新物理学の研究だけでなく、「金平糖の角」や「ひび割れ」など、日常の現象にも注目していた。

* 川崎医科大学医学部

彼の随筆の一つに「科学者とあたま」がある。

頭の悪い人は、頭のいい人が考えて、はじめからだめにきまっているような試みを、一生懸命につづけている。やっと、それがだめとわかるころには、しかしたいてい何かしらだめでない他のものの糸口を取り上げている。そうしてそれは、そのはじめからだめな試みをあえてしなかった人には決して手に触れる機会のないような糸口である場合も少なくない。

〔寺田寅彦：科学者とあたま（鉄塔，昭和8年10月），青空文庫，アクセス日 2023年9月〕

まさに、この「あたまが悪い」ということは、Jobsの「foolish」に通じているように思う。寺田は「科学者になるには自然を恋人としなければならない」と述べており、Jobsは「私は、本当に好きな物事しか続けられないと確信している。何が好きなのかを探しなさい。あなたの仕事にも、恋人にも」と言っている。

流行っている研究だから、博士論文を早めに切り上げた
いからといった理由ではなく、好きなことを損得なしで熱
中し極める。実際どうなるかわからないが盲目的に没入す
る。そこに未知の地平線がはじめて見えてくるのだろう。
私も愚直にチャレンジしよう。